様式１

【鶴見区】令和５年第１回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	５年２月１４日　１５時０５分　～　１６時０５分
場　　所	鶴見区役所６階　８・９会議室
出 席 者	【座　　長】山田一誠 議員 【議　員：６名】井上さくら 議員（オンライン参加）、渡邊忠則 議員、尾崎太 議員、古谷靖彦 議員（オンライン参加）、有村俊彦 議員、東みちよ 議員、 【鶴見区：20名】 渋谷治雄 区長、檜山明子 副区長、市川裕章 福祉保健センター長、中村隆幸 福祉保健センター担当部長、相場崇 鶴見土木事務所長 ほか関係職員
議　　題	令和５年度鶴見区個性ある区づくり推進費予算（案）について
発 言 の 要　旨	井上 議員：保育所について、定員割れの園がある一方で、希望園に入れなかったり、兄弟で違う園に別れてしまったりと、園により対応に差が出ているかと思う。保護者の希望に沿えるように、保育コンシェルジュなどを活用し努力しているとは思うが、区の方でどのように把握して、市の今後の保育施設の整備等に、どのように課題感や解決方法という形で伝えていくのか。 松浦 学校連携・こども担当課長：保育所の空き状況によっては、兄弟揃って入れないなどの状況が生じてしまっている。鶴見区全体の入所状況だが、比較的入りにくいところは寺尾方面で、保育所の数と近隣の方のニーズがかなり均衡しており、定員が埋まりやすい状況となっている。鶴見駅周辺、特に東口は、定員割れが２年ほど前から生じている。そのあたりの保育所の運営の問題は、区としても課題だと考えている。課題の対策については、こども青少年局にも働きかけをしている。定員割れに対してどのように取り組んでいくのか、国のモデル事業等でも空き定員の活用事業があり、そういったものが採択されれば区としては積極的に手を挙げていきたいと考えている。 井上 議員：そのあたりは、新たな課題のようなものもあると思うので、

	ぜひ区の方から積極的に局の方に上げて取り組みを進めてほしい。 井上 議員：区提案反映制度の都市計画道路の早期整備について、古くからある問題だが、三つ挙がっているうち岸谷線に関しては、地元等で反対の声も大きく、一時期、警察等で構造について詰めた結果、難しいということで凍結状態になっている。区としては、岸谷線も含めて路線整備の促進という要望となっているが、特に岸谷線に関しては促進できる状況にないので、区の方できちんと把握して、局への要望を考えてほしいと思うがどうか。 末吉 区政推進課長：都市計画道路の早期整備については、区提案反映制度により道路局に求めている状況となっている。道路局からは、岸谷線に限らず現在未着手の都市計画道路については、整備財源が十分に確保できず事業化の目途が立たないという回答を受けている。区としては、地域の分断などという言葉もあり、脆弱な都市計画道路網の早期整備は優先課題だと考えており、道路局が示す優先整備路線の考え方に基づき、引き続きしっかりと要望していきたいと考えている。 井上 議員：財源も大変だと言っている中で、区であえて要望を出すのであれば、都市計画道路すべてではなく、優先すべきところとそうではないところの分けはするべきだと思う。岸谷線に関しては現状として無理であり、今後慎重に検討してほしい。 古谷 議員：感染症対策事業について、新型コロナの感染症法上の位置づけが２類から５類に変わっていく流れの中で、感染対策指導者養成研修など区の果たす役割は非常に重要だと思う。次の感染者数が増える波が来たとき、今までは区の職員をかき集めてでも様々な対策に当たっていたと思うが、今後はどのように準備していくのか。 金子 福祉保健課長：区の体制としては今のところ局区応援の仕組みが継続している。今後２類から５類になったときにどうするかということは、局も含めて庁内の応援体制など検討していくかと思う。また、感染症対策事業としては、施設でのクラスター、特に高齢者施設や障害者施設などでは起きがちであるため、スタッフの方にきちんと理解いただくというところをしっかりとやっていきたい。 古谷 議員：実際に果たす役割というのはこれからの方が重要ではないかと思う。期待しているので、よろしくお願いしたい。

	古谷 議員：区提案反映制度にある、鶴見駅の歩行者デッキの整備による回遊性の向上だが、東口整備の際にも検討の俎上に載り、様々な理由で引き下げられて今の状況になったと思うが、引き続き区としてしっかり要望するものなのか。 末吉 区政推進課長：鶴見駅のターミナル機能の強化や利便性の向上の中で、歩行者デッキの整備など過去にも検討があったと聞いている。歩行者デッキの整備だけでというのは難しいと思うが、鶴見区の中心である鶴見駅で、子育てしたいまち、次世代をともに育むまちなど、人々が集まる魅力的なまちづくりというものが、こういったまちの整備というものに繋がると思うので、引き続きしっかり局の方にも要望していきたいと考えている。 古谷 議員：東口は完成形ではないと私は思っており、特にバス乗り場とタクシーなど車道とが輻輳するところが２か所も出ているということについては、整備自体がどうだったのかということが問われると思う。検討するのであれば、中距離電車だけに絡めるのではなく、全体的な東口の構造そのものについて検討するべきであり、もっと言えば西口の方も検討してほしい。また、南武線の矢向駅の利便性及び安全性の向上のところで、連続立体交差事業としては矢向駅の手前で下がってくる計画になっていると思う。矢向駅の駅改良とあるが、あそこの踏切の問題というのは、死亡事故も出している大きな問題だ。これらについて、例えば橋上駅舎なども含めた検討はされているのか。 末吉 区政推進課長：連続立体交差事業の推進と矢向駅の駅改良ということで、道路局それから都市整備局に対して要望している。ご指摘のように、矢向駅の北側のところまでは川崎市が連続立体交差を行うと聞いている。横浜市側については、連続立体交差事業の可能性があるのか、また、橋上駅舎のようなことができないのか、両方を含めて、この区提案反映制度で道路局及び都市整備局に要望している。 古谷 議員：川崎側は具体的な計画が進んでいる話なので、それに繋がる横浜側のところをどうしていくかということが本当に問われている。矢向駅の踏切については、駅舎そのものを上げていくしか改善の道はないのではないか。矢向駅の改良は、ぜひ実現をお願いしたいと思う。 有村 議員：ＩＣＴ活用により区本部と地域防災拠点の情報共有機能を強

	化するとの説明だが、災害時には専用の通信回線が使えるのか。 武 総務課長：現在は教育委員会のＷｉ－Ｆｉが災害時に使えるようになっており、それに加え、地域のＣＡＴＶ・イッツコムのＷｉ－Ｆｉというのをこれから敷く予定になっている。 有村 議員：災害時には緊急通信を優先させて制限がかかったり、被害を受けてＷｉ－Ｆｉ環境自体も通信が途絶えたりということが想定されるが、今説明してもらったＷｉ－Ｆｉは災害時に優先されるものなのか。 武 総務課長：教育委員会のＷｉ－Ｆｉは通常回線だが、イッツコムの回線は災害時に優先されるものとなっている。 有村 議員：訓練時ではなかなか確認できないようなこともあると思うが、どの程度の災害までその回線が期待できるのかということは、しっかり詰めていただきたい。 有村 議員：鶴見区バスマップについて、高齢の方からバスルートの事をよく聞かれるのだが、このマップは紙では 9000 部ということだが、ＷＥＢサイトで簡単に見られるなどの手段はあるか。 末吉 区政推進課長：バスマップは、紙で発行しているとともに鶴見区ホームページ、それから各区のバスマップが掲載されている横浜市ホームページにも掲載している。 有村 議員：高齢の方は紙媒体が非常に有効だと思う。例えば敬老パスをお持ちの方に、バスマップをどういうふうに届けるかを、ぜひ検討してほしい。鶴見区だけでも今発行している敬老パス数は 2 万 2441 枚あるらしい。いま、敬老パスは単体で郵送されるだけなので、郵送する際にどういう情報を一緒に伝えられたらいいかというのを、局も含めて考えてほしい。 末吉 区政推進課長：バスマップについては、鶴見区に転居してきて区内に不案内な方や、高齢・障害支援課で敬老パスに関するお問い合わせをされた方などに配布しており、求めている方にはある程度お渡しできていると考えているが、貴重なご意見だと思うので敬老パスを実施している健康福祉局にも伝えていきたい。 有村 議員：引っ越してきた方全員がバスを主な移動手段とするとは限らないので、ニーズとのマッチングもぜひ検討してほしい。

	有村 議員：東寺尾６丁目にある寄附された古民家について、環境創造局が区と連携しながらニーズを把握し、できるだけ早期に活用の方針を立てるとのことだったと思う。もう２年ぐらい経つが、何か進んでいるのか。 末吉 区政推進課長：東寺尾６丁目の古民家は、令和２年３月に市として寄附受納している。活用については公民連携の手法を検討しており、環境創造局が過去に一度サウンディング型市場調査を行った。来年度に第二回の調査を行って検討をさらに進めると聞いている。鶴見区内には横溝屋敷など他にも古民家があり、どういうふうに見せるといいか、どういった方に訪れていただくといいかというところを、環境創造局と連携しながら区の魅力の一つとして取り組んでいきたいと考えている。 有村 議員：古民家については、歴史保存や学習的要素が強くなると行政負担が非常に増えてしまう面もあるので、その辺のバランスを含めてサウンディング調査をしているものと理解している。古民家とあわせて、新築の平屋や駐車場になるような舗装した土地もあったと思うが、それぞれニーズなどを分けて考えるべきか、一体で考えるべきか、２年前から言っている課題なので、区としても積極的に情報交換しながら、マッチングなど含めて進めてほしい。 東 議員：政府の方針で「出産・子育て応援給付金」が妊娠時に５万円、出産時に５万円、それぞれ申請によって支払うということで、申請時に面談ということになっており区役所の対応となると思う。特に最初の年なので申請が多いと思うが、体制はどのようにしているのか。 斎藤 こども家庭支援課長：面接は、これまでも妊娠届けをお持ちの方に全数面接を行っている。正規職員の助産師・保健師、それ以外に会計年度任用職員として鶴見区は母子保健コーディネーターの４名体制で、全員の方と面接のうえ母子手帳を発行しており、その際に申請についてご説明するという形を取っている。なお、出産後も訪問等で確認をして申請をしていただくようになるため、来年度は母子保健コーディネーターの増員も予定されている。 東 議員：特にこの鶴見区は、児童虐待、妊娠出産に関する様々なことが起きがちであり、妊娠時から寄り添っていけるような面接体制がとれれば虐待予防にも繋がると思うので、よろしくお願いしたい。

	渡邊 議員：局の再編で、保健所業務の所管が健康福祉局から医療局にかわるが、区の福祉保健センターへの影響はないか。 市川 福祉保健センター長：保健所部門の健康福祉局から医療局への移管は、保健所医療分野の連携による健康危機管理の機動的な対応、新興感染症の一元的管理を進めるために行うと聞いている。福祉保健センターの業務所管には変更はないため、特に影響はないと考える。 渡邊 議員：放課後キッズクラブの方から、多動性障害の子どもが増えていて対応に苦慮しているという話を聞いている。以前に、鶴見 DE 子育て応援事業の中で、放課後キッズクラブ職員向けの研修をやっていたと思うが、現在どうなっているのか。 松浦 学校連携・こども担当課長：平成 29 年から令和２年にかけて放課後事業の関係職員向けに、障害の理解やアレルギー対応などの研修を実施していた。新型コロナの影響で集合研修が難しくなり、来年度予算でも見合わせているというのが現状となっている。 渡邊 議員：現場からの声を聞くと、非常に必要性を感じる。コロナ禍ということでオンラインなどＩＣＴ化が進んでいるので、そういうものを利用しながら工夫して、現場の皆さんが困っていることに対しての研修といった機会をつくれないか。 松浦 学校連携・こども担当課長：現場の方からは、障害のお子さんが増えている中で、放課後キッズクラブや保育所などでも対応に困っているというご意見は伺っている。区の予算は計上していないが、局の方で保育所を巡回して障害について啓発するという地域療育センターの取組などがあるので、ぜひ放課後キッズクラブなどにも広げて対応してもらえるよう要望していきたい。 渡邊 議員：踏切の安全対策については様々な対策を進めていると思うが、鶴見区では課題となる踏切として生見尾踏切が挙げられている。昨年 11 月に生見尾踏切で歩行者と列車が接触する事故が発生したという記事があるが、このことは把握しているのか伺いたい。 末吉 区政推進課長：昨年 11 月 24 日に生見尾踏切内で事故が発生したことを確認している。翌日の新聞では、重傷事故と言うことで報道されていたが、その後、被害者の方が亡くなられたと道路局から聞いている。 渡邊 議員：生見尾踏切については、平成 25 年８月 23 日に高齢の男性の

	方が踏切を渡り切れずに、列車と衝突して亡くなるという大変痛ましい事故が発生した。以来、道路局は再びこのような事故を発生させないために、新たなこ線人道橋を整備して踏切を廃止するという抜本的対策を進めているところだが、10 年が経過する今も対策の実施には至っていない。このような中で、また２人目の尊い人命が失われるという、あってはならない事故が発生してしまった。本当に様々な課題があり、道路局が苦慮していることも承知しているが、前回の事故を教訓として生かせなかったことは非常に残念であるし、私自身も議員としての責任を非常に感じている。課題が多くあるとしても、死亡事故が２回も発生したわけであり、今後二度とこのような事故が起こらないよう、１日でも早い対策の実施について区からも道路局にしっかりと伝えてほしい。 渋谷 鶴見区長：生見尾踏切については、私も就任してから１年弱ではあるが、何度も現場を見に行っている。事故については、大変重く受けとめており、区としても区民の安全・安心の確保、それから人命最優先で考えなければいけないと思っている。生見尾踏切の安全対策については、長い間検討を重ねて、地域の皆様の意見を伺いながら進める中で、安全性それから利便性といった観点で、様々な意見があったと聞いている。いずれにしても今回の事故を重く受けとめ、早期の安全対策に向けて、今後地域の方々に丁寧にご説明していくために、区としても道路局とともに考えていきたい。 尾崎 議員：防災活動推進事業のまるごとまちごとハザードマップについては、地域と調整しながら推進していってほしい。 　また、鶴見区防犯活動支援事業での迷惑電話防止機器の貸与について、どのくらいの台数になるのか。 岩田 地域振興課長：４年度は 220 台を購入しており、５年１月末現在では 165 台ほど貸与している。その前の３年度は、同じく 220 台購入して 90 台を貸与、２年度は 164 台を貸与しており、毎年 150 台程度の貸与ということで啓発をしていきたいと考えている。 尾崎 議員：220 台購入して 165 台貸与ということは、余ったものは繰り越しているということか。 岩田 地域振興課長：繰越で考えている。 尾崎 議員：詐欺を撲滅できるよう、ぜひ広く周知して、いろいろな人に使っていただけるようにしてほしい。

	尾崎　議員：資源循環局の事業になるが不法投棄防止対策について、車で岸谷生麦トンネルを通ると、カーブになったところから急にごみが捨ててあり本当に毎回残念な思いをする。不法投棄の通報が入り、職員が清掃する。その繰り返しをしていると思う。税金を使う話で大変苦慮するが、ごみを捨てないような対策というのは、実際には難しいのか。 露木　資源化推進担当課長：不法投棄については至る場所で現在も発生している。資源循環局としても定期的にパトロールを行い、周囲の方から通報があった場合には速やかに対応がとれるようにしている。ただ、現状としてはなかなか減っていかないところであるが、なるべく区民の方の声を多く出していただき、啓発の看板等も設置していきたいと考える。 尾崎　議員：区提案反映制度の鶴見駅の歩行者デッキ整備による回遊性向上については、立ち消えたわけではなく現在もあるということか。あるのであれば、今後どうしていくのか。 末吉　区政推進課長：区としてはその必要性を感じており、区の都市マスタープランに掲載して、都市整備局へ引き続き要望している。 山田　議員：災害時要援護者には妊婦や乳幼児も入ると思うが、法としては高齢者・障害者に限られているところがある。令和５年度はこども青少年局の方でこの対策の予算がつき、現在も局横断で課長級会議があると聞く。今後、本来の意味での要援護者という形でいろいろなことが局から降りてくると思うので、ぜひ対応をお願いしたい。